

刈取適期は平年より大幅に早まる見込み！ 圃場の土壌水分を保ちつつ稲刈りの準備を！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

出穂後、記録的な高温が続いており、刈取適期は大幅に早まる見込みです。

一方で、イネは出穂後30日頃まで水を必要とすることから、引き続き間断かん水、飽水管理を行う必要があります。

圃場の土壌水分を保ちつつ、刈取りの準備を進め、刈取適期に入ったら速やかに作業に入れるように準備を進めましょう。

◎「はえぬき」「雪若丸」の登熟状況

8月21日現在の登熟歩合は、県内平坦部の平均で「はえぬき」**34.2%**、「雪若丸」**40.2%**となっており、順調に登熟が進んでいます。農業総合研究センター（山形市）では、「はえぬき」で30.2%、「雪若丸」で37.6%となっており（図）、過去の同時期よりも進んでいます。

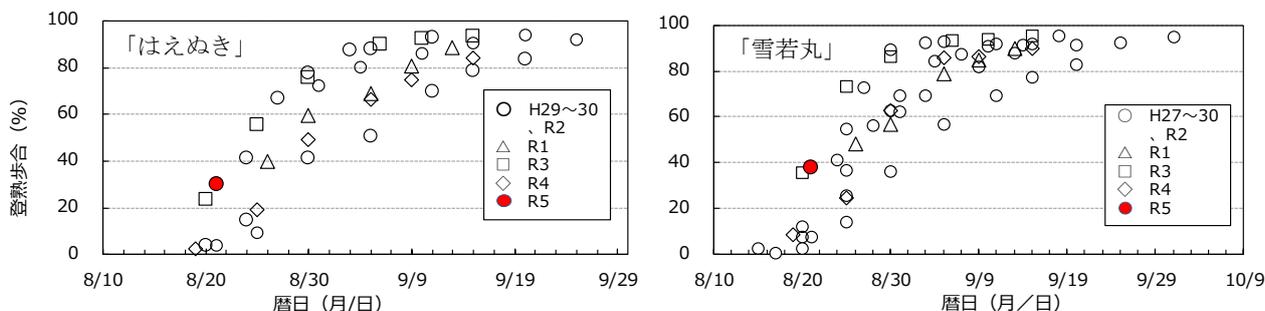


図 出穂後日平均気温積算値（積算気温）と登熟歩合（農業総合研究センター作況ほ）
左：「はえぬき」7/31出穂、右：「雪若丸」7/31出穂

◎今後の技術対策

(1) 登熟中～後期のきめ細かな水管理

今後も気温は高い予報となっています。間断かん水、飽水管理等を行って、土壌が湿った状態を保ち、根の活力を維持して白未熟粒や胴割れ粒の発生を抑えましょう。

早期落水は厳禁です！！

(2) 収穫、乾燥調製の準備

コンバイン、乾燥機や籾摺り機等の整備点検を早目に実施しましょう。また、収穫計画を立てて、無理なく、適期内に収穫できるように準備しましょう。

(3) 適期刈取りの徹底

刈取適期は、積算気温を目安とし、籾水分、青籾歩合、枝梗の黄化、倒伏程度などを加味して総合的に判断します。本年は、出穂以降の気温が非常に高く経過しているため、刈取適期の目安となる日平均気温の積算値は、「はえぬき」900～1,150℃、「つや姫」950～1,150℃となります。「雪若丸」やその他の品種は、指標より50℃前倒しした積算気温900～950℃付近では場を確認し、刈取りの判定を行いましょう。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

農作業は休憩と水分を十分にとりながら、余裕を持って複数人数で行いましょう。
コンバイン等、農業機械による重大事故の発生に注意しましょう。 **STOP農作業事故！**